

「看護学概論」学習指導案

広島県立広島皆実高等学校
教諭 黒田京子

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本洋子）

本学習指導案では、医療安全の視点で、生徒の安全管理能力を高め、安全を確保するために自らが気付くことができるよう工夫された授業展開になっています。これまでの学習内容を活用し、社会から求められている医療の質の向上に関連させ、現在の学習が将来社会で活躍することに繋がることを意識させ、医療安全における医療者と患者との協働の必要性や、コミュニケーションの大切さに気付くよう工夫されています。

1 日 時 令和4年11月8日（火） 1限

2 場 所 専攻科1年HR教室

3 対 象 専攻科1年生 40名

4 単元（題材）名 看護学概論「医療安全と医療の質の向上」

5 単元（題材）の目標

安全で質の高い看護実践を提供するために医療事故増加の背景や看護業務の特性を理解することで安全管理能力を向上させ、患者の視点に立った質の高い看護の提供について考えることができる。

6 単元（題材）について

（1）単元（題材）概

医療安全教育では、生徒の安全管理能力を高め安全を確保するための、自ら気付く力や考える力を養うこと状況判断力や実践力に結び付いていく。生徒は看護職者として医療事故を予防することができ、安全で質の高い看護が提供できるように、看護基礎教育では看護師の責務を考えさせる必要がある。

しかし、患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められている中で、事故さえおきなければよいという消極的な考え方ではなく、患者に対してよりよいサービス提供を追求するという積極的な取組を考えさせる必要がある。

（2）生徒観

生徒は専攻科1年生であり、医療安全や看護サービスについての授業は、看護の統合と実践Ⅰ「看護管理」において履修している。医療安全については、これまでの学習や臨地実習の経験から一定の知識は身に付けている。しかし、国民の医療の質に対する意識が高まっている中で、安全な医療のための対策だけでなく、医療安全を含めた医療の質の向上の視点を持って看護の学習を深めていく必要がある。生徒は発問や課題に対して個々で考え、自分の意見を持つことができている。

（3）指導観

生徒が考えているそれぞれの看護師像は、よりよい看護を目指すという医療の質の向上と繋がっている。質の向上のためには、様々な状況に対する判断力と倫理的な視点を持った生徒の育成が必要である。このことから生徒の思いを大切に、これまでの学習内容を活用し、社会から求められている医療の質の向上に関連させ、現在の学習が将来社会で活躍することに繋がることを意識できるよう指導していきたい。

今後看護師として、また、チーム医療の一員として活躍するために、チーム協働の視点からグループワークや他者の意見を共有することで、主体的かつ協働的に取り組ませたい。

7 単元（題材）の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
医療安全や医療の質の向上について関心を持ち、医療事故防止対策に意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	医療事故の危険因子を予測し、危険の回避方法を思考・判断し、患者の視点に立った質の高い看護について考えを述べることができる。	医療事故防止に配慮した知識と技術を身に付け、回避行動や、患者の視点に立った質の高い看護について既習の知識を活用できる。	医療安全の法則や人間の特性を理解し、医療事故を予測した回避行動や患者の視点に立った質の高い看護を理解している。

8 単元（題材）の指導計画（全2時間）

時間	学習内容	評 価				
		関	思	技	知	評価規準
1時間	（1）医療事故の増加 ・医療事故増加の背景	○		○	○	・医療安全や医療の質の向上について関心を持ち、医療事故防止対策に意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。 ・医療安全の法則や人間の特性を理解し、医療事故を予測した回避行動を理解している。 ・医療事故防止に配慮した知識と技術を身に付け、回避行動や、患者の視点に立った質の高い看護について既習の知識を活用できる。
1時間 本時	（2）医療事故の要因と医療の質の向上 ・医療現場のシミュレーションを活用した医療安全教育 ・リスクマネジメントから医療の質の向上		○			・医療事故の危険因子を予測し、危険の回避方法を思考・判断し、患者の視点に立った質の高い看護について考えを述べるができる。

9 本時の授業

(1) 本時の目標

患者が求める医療とその医療の質を向上させるために必要なことを考え表現することができる。

(2) 観点別評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
医療事故の危険因子を予測し、危険の回避方法を思考・判断し、患者の視点に立った質の高い看護について考えを述べるができる。			

(3) 準備物 教科書：医学書院「看護学概論」 ワークシート

(4) ルーブリック

A	B	C
患者の視点に立って医療安全や医療の質の向上について授業内容と関連させて具体的に考え表現できる。	患者の視点に立って医療安全や医療の質の向上について具体的に考え表現できる。	患者の視点に立って医療安全や医療の質の向上について考えることはできるが、具体性がない。

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 本時の目標を確認する。	◇本時の学習目標を伝える。 ◇事前に読んだ新聞記事で考えたことを共有する。	
展開 40分	2 課題を見いだす。 ・患者の満足度について記事を通して現状を知る。 ・患者の医療に対する思いを理解する。 3 課題解決を行う。 ・与薬のインシデント事例からその結果と要因を分析し、医療の質の視点で考える。 ○インシデントの要因を考える。個人→グループワーク→発表 ○評価の視点で考える。グループワーク→発表 ・看護師の責務について理解する。 4 本時の振り返り ・医療安全を含めた医療の質の向上について考えを質問に入力する。 ・他者の意見を共有する。	(発問) 患者が求める医療とその医療の質を向上させるためには何が必要か。 この記事では、患者は医療に対して何を求めていますか。 (発問) みなさんが病気になった時にどのようにして病院を選びますか。 (説明) 自分であればどのような視点で選ぶか考えてみる。 ◇与薬は看護業務の中でインシデント・アクシデントの発症率が一番高いことから事例を選択する。 (発問) インシデントの要因を考えて、その要因が①構造→②過程→③結果のどの視点にあたるだろうか。 (説明) ワークシートの視点の内容を確認して考えてみよう。 ◇医療の質の評価としてコミュニケーションの大切さや医療安全における医療者と患者の協働の必要性を理解させる。 ◇過程では看護師が直接患者に関わる最後の医療者であることを理解させる。また、よりよいコミュニケーションやチーム協働により質の高い看護に繋がることを理解させる。 ◇患者の権利、ナイチンゲール誓詞にある看護師としての責務について想起させる。医療の質の向上は、看護師の責務であることを確認させる。 (発問) 患者が求める医療とその医療の質を向上させるためには何が必要か。 (説明) 医療安全を含めた医療の質の向上について考えみよう。考えた内容を実践するにあたり、生徒自身が心がけることも記入する。	医療事故の危険因子を予測し、危険の回避方法を思考・判断し、患者の視点に立った質の高い看護について考えを述べることができる。 (思) (授業観察・ワークシート・ペーパーテスト)
まとめ 5分	5 本時のまとめ	◇本時の目標を再度確認させる。	